

子どもたちの今を考える「不登校フォーラム」報告書

- ◆開催日時：令和7年6月2日（月）午後2時から4時
- ◆場所：メイシアター レセプションホール
- ◆参加：99名（オブザーバー8名含む）
- ◆登壇者：関西大学 社会学部教授 吉岡洋子氏
不登校ひろば@吹田代表 井上晶子氏
フリースクール BONPLACE 代表 日野航氏
- ◆内容：



第1部では、吉岡氏より基調講演として「不登校をめぐる現状と社会の動き～子どもたちの声から、こどもたちのいまを共に考える地域へ～」と題し、不登校の現状や背景、社会の変化について解説いただいた。こども基本法施行により「子どもの声」の尊重が進んでいること、地域や当事者による多様な支援の取組みが進む一方で依然として個人の努力に委ねられている現状があること、地域で子どもを理解し支える環境づくりが求められていることなどをお話いただいた。

第2部では登壇者による鼎談、グループごとの交流、会場からの質問を踏まえて登壇者によるトークラリーを行った。

鼎談では吉岡氏からの質問に応答する形式で、井上氏、日野氏の活動内容や活動に至るまでの経緯についてお話いただいた。また、トークラリーでは、会場から「不登校の子どもたちはどのような場所を求めているか」「何か手助けしたいが具体的に何をすればよいか」などの質問が挙がり、参加のハードルが低い場所が求められることや、特別な対応ではなく普段通りに接することが当事者にとって安心できる関わりであることなどが伝えられていた。

◆参加者感想（アンケートより一部抜粋）

- ・子どもの権利や人権について、よく理解できました。
- ・とてもよかったです。大切な機会だと思うので、地域ごとに開催してほしいです。
- ・これからの学校システムの限界⇒変化が必要と思うことを感じました。
- ・不登校の本人の思いや、親御さんの思いが伝わり、自分自身の価値観も変わったように思います。
- ・不登校の子供達の居場所の必要性を感じ、その子に合った場所をゆっくり見つけていく必要があると感じました。
- ・親も子もひとりじゃない、悩みが話せる場所の存在がありがたいと思いました。
- ・保護者へのフォローや情報共有の重要性を感じました。
- ・地域活動されている方が不登校についても目を向けて下さっていることが知れてよかったです。
- ・問題は「不登校そのもの」ではなく、それに伴って起こる状況にあるのではないかと感じました。
- ・「普段どおりに接する」「学校に行かないことは悪いことではない」という言葉が心に残りました。
- ・家庭が安心される場所に、地域が安心できる場所になるような声かけが出来るようにしたいと思いました。
- ・ドリンクとお菓子のもてなしが嬉しかったですし、ピアノ演奏や資料配布係など、子どもの姿に心があつたまりました。
- ・個人的にも学びを進めているところで、「ハードルを下げる」というキーワードが印象的でした。
- ・学校との連携を今後どのように考えていくかが課題だと感じました。